

## 地域まるごとウォークラリー

採用プログラム：「宮古市立宮古小学校PTA」

平成25年度宮城県知事賞：蔵王町立平沢小学校

### 【プログラムの概要】

児童たちが、学校周辺の地形や土地利用、公共施設や歴史的建造物等、身近な地域の特色に触れることが出来るウォークラリーコースを設定し、地図を見ながらグループ毎にウォークラリーを実施。

ルート途上に数カ所設置するチェックポイントにおいて、ルート上で確認すべきことについてクイズなどで確認しながらゴールを目指す。

ゴール後、グループ毎にルート上で発見したことや気付いたこと、考えたことなどを発表し合い、自分たちの身近な地域における自然環境の特色や生活、産業等の関係や自分たちとの関わりについて学習するプログラム。なお、本プログラムは、「宮古市立宮古小学校PTA」で実施されたプログラムにESDの視点を取り入れ汎用化したものです。

【プログラムの所要時間】 1時間～3時間分

### 【主なESDの視点】

持続可能な社会づくりの構成概念						ESDの視点に立った学習指導で重視する能力・態度						
Ⅰ 多 様 性	Ⅱ 相 互 性	Ⅲ 有 限 性	Ⅳ 公 平 性	Ⅴ 連 携 性	Ⅵ 責 任 性	① 批 判 的 に 考 え る 力	② 未 来 像 を 予 測 し て 計 画 を 立 て る 力	③ 多 面 的 ・ 総 合 的 に 考 え る 力	④ コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン を 行 う 力	⑤ 他 者 と 協 力 す る 態 度	⑥ つ な が り を 尊 重 す る 態 度	⑦ 進 ん で 参 加 す る 態 度
	○			○				○	○	○	○	

### 【ESDの目標】

(1) 構成概念

- ・地域の地形や植生の特色、産業や生活様式が、自然環境と関係。(Ⅱ相互性)
- ・地域に住む人や組織は協力しあって地域の暮らしを維持。(Ⅴ連携性)

(2) 能力・態度

- ・地域の暮らしを自然、社会、産業など多面的総合的に考える能力を養う。(③多面的総合的)
- ・他者と合意形成を図ることを通じて、積極的に相手と関わっていく態度を養う。(④コミュニケーション)
- ・他者と協力して課題解決に取り組むことを通じて、他者と協力する態度を養う。(⑤協力)

- ・地域の自然環境や生活、産業を通じて、様々な主体の立場や環境を理解・尊重する態度を養う。(⑥つながり)

### 【学習指導要領による関連教科】

**社会** 3年生・4年生

- (1) 自分たちの住んでいる身近な地域や市（区，町，村）について，次のことを観察，調査したり白地図にまとめたりして調べ，地域の様子は場所によって違いがあることを考えるようにする。
- (4) 地域社会における災害及び事故の防止について，次のことを見学，調査したり資料を活用したりして調べ，人々の安全を守るための関係機関の働きとそこに従事している人々や地域の人々の工夫や努力を考えるようにする。

### 【教科・単元の関係】

	実施
社会	・ウォークラリーの実施により、身近な地域の観察・調査をし、地域の様子を学習する。

## 【プログラムの流れ】

学習のねらい・取組例		教材等
<p><b>【準備】（実施者の事前準備）</b></p> <p>ウォークラリーの<b>コース、チェックポイント、ワークシート等</b>を準備する（3～4時間）</p> <p>①ウォークラリーのコースや確認すべき事象、チェックポイント等を検討・設定する。</p> <p>②チェックポイントにおける確認事項・<b>手法(クイズ等)</b>について検討・設定する。</p> <p>③ゴール後のまとめにおける確認事項や投げかけを検討する。</p> <p>④その他、実施に必要なシート等を用意する。</p>	<p>皆さんの身近な自然や特色などを盛り込んで<b>チェックポイント</b>や<b>コース</b>を設定してみてください！</p> <p>特色などが理解しやすい<b>手法を工夫</b>してみてください。</p>	<p><input type="checkbox"/>コース図等</p> <p><input type="checkbox"/>確認手法</p>
<p><b>【実施】</b></p> <p>事前の説明と<b>ウォークラリーの実施</b>（60～90分）</p> <p>①グループ毎に(※)、ウォークラリーを実施。</p> <p>（※可能であればグループ毎に時間差を設けて実施すると効果的）</p> <p>②チェックポイント毎に、実施者（教員等）が待機し、児童に対してそれぞれ確認事項を投げかけるとともに、安全確認（体調や交通状況等）も併せて行う。</p> <p>③実施の状況が、本来目的と乖離するような状況の場合、必要に応じて実施者（教員等）が引率する形式を取ることも可。</p>	<p>実施者と参加者のほか、<b>地域の人たちとの協力</b>など、<b>ウォークラリー実施に向けた工夫やアイデア</b>を考えてみましょう。</p>	<p><input type="checkbox"/>コース図等</p> <p><input type="checkbox"/>ワークシート等</p> <p><input type="checkbox"/>確認シート等</p>
<p><b>【まとめ】（10～30分）</b></p> <p>ゴール後に、自分たちがチェックしてきた事象について確認するとともに、自分たちの身近な地域における自然環境や生活、産業がどのように関わっているか、そして自分たちもまた関わっていることを再確認させ、自分たちの地域における自分たちの関わり方を考えることができるような意識を投げかける。</p>	<p>グループごとに、<b>ワークシートのまとめ方や、発表の仕方</b>を工夫してみましょう。</p>	<p><input type="checkbox"/>まとめシート等</p>

## 【実施者マニュアル例】

内容	進め方・留意点
<p><b>【準備】（3～4時間）</b></p> <p>①身近な地域の特色ある地形や産業などを調べ、それらを巡るコースを設定する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たち（学区）の身近な自然環境や暮らし、産業の特色とその関係性について、実際に目で見て理解できる場所や建物等を調べ、それらを巡るウォークラリーコースを設定するとともに、コース図を作成する。</li> <li>・コース上に数カ所程度のチェックポイントを設け、コース上で確認すべき事象について、チェックポイントにおいて確認できる手法を検討・設定する。</li> <li>・その他、ウォークラリー中に使用するワークシート等を準備する。</li> </ul>

<p><b>【実施】（1時間～3時間）</b></p> <p>①事前説明（5～10分）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コース図の説明と途中のチェックポイントにおける確認について、事前に説明し、児童がコース途上で何を確認する必要があるのかを十分に説明する。</li> <li>・ゴール後、グループ毎に何を見て、何を発見・考えたかなどを発表することを伝え、グループ毎に課題意識を持たせる。</li> <li>・併せて交通安全や挨拶等についても指導する。</li> </ul>
<p>②ウォークラリーの実施 （1時間～3時間程度）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ毎(※)にウォークラリーを実施。 （可能であれば時間間隔を置いて実施すると効果的）</li> <li>・チェックポイント毎に、実施者（教員等）が待機し、児童に対してそれぞれ確認事項を投げかけるとともに、安全確認（体調や交通状況等）も併せて行う。</li> </ul> <p><b>【確認事項例】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校脇に何があったでしょうか？ 学校は何の役割を果たしているでしょうか？（正解：大きな並木。津波シェルタとして自治体で管理されている）</li> <li>・神社の石段が沢山ありますが、これは昔からあることに役立っていたそうです。どんなことでしょうか？（正解：災害時の避難場所）</li> </ul>
<p><b>【まとめ】（計30分）</b></p> <p>①発表（10～20分）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウォークラリーで発見したことや考えたことなどをグループ毎に発表。</li> <li>・グループ毎の発表について意見交換し、それぞれが共有できるよう誘導する。</li> </ul>
<p>④まとめ（10分）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プログラムを通じて、自分たちの身近な地域における自然環境や生活、産業がどのように関わっているか、そして自分たちもまた関わっていることを再確認させ、自分たちの地域における自分たちの関わり方を考えることができるような意識を投げかけるとともに、全員で意見を共有する。</li> </ul>

※個々の「内容」についてはI～VI、個々の「進め方・留意点」については①～⑦のそれぞれ何を主眼とするか意識して実施する。

**【平成 25 年度 宮城県知事賞：蔵王町立平沢小学校の取組】**

内容	進め方・留意点
<p><b>【導入】</b> ①コース・班の設定、問題作成</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・縦割班を作成し、高学年児童をリーダーとする。</li> <li>・学区内の歴史的遺物などをポイントにコースを設定する。</li> <li>・各ポイントにおく問題（地域への理解が深まるよう、そのポイントの文化財に関わる問題）を作る。</li> </ul> <p><b>【問題例】</b> この近くに町の指定保存樹木があります。 なんの木でしょうか？</p> 
<p>②縦割班の班長会、打合せ会の実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・縦割班班長会 → 指令書とコース図を渡し、概略を理解させる。</li> <li>・打合せ会 → ウォークラリーのやり方、持ち物の確認。 班のシンボルマークの作成。 活動目標の設定。</li> </ul> 
<p><b>【展開】</b> ①ウォークラリーの実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・班毎にコースや順序などの活動目標（司令書）を発表。</li> <li>・各班毎に時間差で出発。</li> <li>・各ポイント毎の問題に対する答えを解答欄に書き、答えたらパズル片を一つ取る。</li> <li>・芋煮会で週直休憩しながら感想を言い合う。</li> <li>・ゴール後、絵日記風の感想を記入する。</li> </ul> 
<p><b>【まとめ】</b> 完成パズルの披露</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・解散セレモニーで、各ポイントで集めたパズル片を貼り付け、完成したパズルを披露する。</li> </ul> 